

滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況と評価

資料3

進捗状況						
	現状 H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
【環境こだわり米の作付面積割合】						
実績	45 %	44 %	44 %	44 %		50%以上 (目標)
(進捗の評価等)						
<p>○ ①環境保全型農業直接支払交付金において、平成30年度からの制度変更（複数取組への支援廃止、GAPの取組の要件化）、②化成肥料と有機質肥料との価格差の拡大により、一般栽培とのコストの差が広がり、交付金のメリット感が薄れてきたこと、③一般の農産物と同程度の価格で取り扱われている事例が多いことなどから、環境こだわり米の作付け面積割合は44%に留まっている。</p> <p>○ 今後は環境こだわり米の「みずかがみ」および「コシヒカリ」の有利販売・流通拡大に向けた取組を強化する。また、環境こだわり農産物全体のブランド力向上を図ることによって生産を拡大するため、琵琶湖を抱える滋賀ならではの象徴的な取組としてオーガニック農業を推進する。</p>						
【環境こだわり米作付面積(みずかがみ、コシヒカリ)】						
みず	2,575ha	2,748ha	3,208ha	3,299ha		3,000ha以上
コシ	5,148ha	4,917ha	4,718ha	4,552ha		6,000ha以上
合計	7,723ha	7,665ha	7,926ha	7,851ha		9,000ha以上
(進捗の評価等)						
<p>○ ①主食用米の生産面積が減少したこと、②米政策改革により、業務用の多収米への作付け誘導が推進されたことなどから、環境こだわり米の作付面積は減少している。</p> <p>○ 今後は、環境こだわり米の「みずかがみ」と「コシヒカリ」の有利販売・流通拡大に向け、在阪4局とびわ湖放送におけるテレビCMの放映や集荷事業者のJA・全農しが、卸売事業者、量販店と連動した販売促進活動への支援等の取組を強化することにより、生産拡大につなげる。</p>						
【野菜で環境こだわり農産物の生産拡大を図る重点推進品目数】						
実績	—	—	1品目	3品目		3品目以上 (目標)
(進捗の評価等)						
<p>○ 「滋賀県園芸農産振興協議会」において、にんじん、かぼちゃ、こまつなを重点推進品目に定めた。</p> <p>○ 主産地と関係機関・団体よりの重点品目（にんじん）のPR手法を検討し、PR用ののぼりや店頭POPなどの販売促進用資材の作成や、記者資料の提供によりPR活動を行った。</p> <p>○ 記者資料の提供については、主産地の地元小学生による収穫体験学習に併せて行い、新聞記事へ掲載され販売促進につなげることができた。</p>						
【オーガニック農業(水稲)取組面積】有機JAS相当の水稲作付面積						
実績	146ha (247ha)	131ha (254ha)	133ha (291ha)	237ha	※集計方法変更に伴い目標値変更 ()内は変更前の実績値	(変更後) 300ha (変更前) 420ha
(進捗の評価等)						
<p>○ 生産面では、乗用型水田除草機の現地実演会や各種研修会、機械導入補助等を行い安定栽培技術の啓発・普及を行った。</p> <p>○ 販売面では、首都圏における販路開拓マネージャーの設置やオーガニックEXPOへの出展を進めるとともに、統一デザインの米袋を用いた量販店での販売、玄米パックライスの試験販売やオーガニック米粉を使用したパンケーキミックスの試作等、新規販路の開拓、認知度向上に取り組んだ。</p>						

進捗状況						
現状 H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
【オーガニック農業(茶)取組面積】(有機JAS相当の茶面積)						
実績	7ha	11ha	12ha	11ha	(調査中)	12ha (目標)
(進捗の評価等) ○ リーフ茶の需要拡大と「近江の茶」ブランドの向上を図るため、輸出に幅広く対応できる有機栽培の取組を支援した。 ○ 実証ほの設置や品質評価等を実施することにより、うま味のあるオーガニック茶生産に向けた技術改善を支援した。また、産地での話し合いを行い、効率的な製茶体制に向け情報交換し、有機JAS認証取得の機運が高まった。 ○ 産地体制の構築に向けた取組としてオーガニック栽培を推進する産地において、実証ほの設置を支援した。						

【魚のゆりかご水田取組面積】						
実績	131ha	148ha	143ha	143ha	(調査中)	250ha (目標)
(進捗の評価等) ○ 近年、取組面積増加が緩やかになっているが、推進もすすめており新規地区も増えている(野洲市 野田など)。 ○ 流通に関しては、コロナ禍で米消費量が減少している影響を受けている。積極的な流通拡大は難しい状況にあるなかで、今後は、直接的な取引のある京阪神向けにPRをしたい。 ○ 令和2年度には、統一パッケージを作成した。積極的な活用をすすめている。 ○ また今年度は、生物に関する調査を協議会において実施している。SDGs15「陸の豊かさを守ろう」に貢献する取組として消費者への説明できるものとする。						

※継続把握指標(目標値は持たないが継続して把握する必要がある指標)

【環境こだわり農産物の認知度】						
実績	45.7%	45.7%	-	-		

【環境こだわり米「コシヒカリ」の集荷量に対する出荷割合】						
実績	37.8%	26.4%	44.0%	49.4%	57.3%	

【有機JASほ場面積】						
実績	186ha	170ha	188ha			